

◆追悼◆

乗松誠司先生のご逝去を悼んで

通信情報システム専攻 教授 佐藤 亨



情報学研究科通信情報システム専攻准教授乗松誠司先生は、平成27年10月20日夜にご自宅で急性心筋梗塞を発症され、緊急入院されましたが、懸命の治療も及ばず意識を回復

されないまま、10月30日19時51分に53歳という若さで逝去されました。

先生は平成10年4月に情報学研究科が発足した際、NTT光ネットワークシステム研究所より助教授（平成19年職制変更により准教授）として招聘され、新設された集積システム工学講座・超高速信号処理分野に着任されました。

先生は爾来一貫して光ファイバ通信における大容量化の研究、特に波長多重化において問題となるファイバ非線形効果の研究に従事され、この領域では世界をリードする中核的研究者の一人として知られています。本稿を執筆中に、先生が昨年に発表された論文に対して、第11回電子情報通信学会通信ソサイエティ論文賞（優秀論文賞）が贈呈されることが決定したという連絡がありました。先生ご自身による受賞がかなわないのが極めて残念です。

この分野はファイバ中の光波伝搬の物理に関する高度な理解と知識を要求するため、世界的競争を勝ち抜くためには深い専門性が不可欠です。しかし、それは先生が狭い領域にこもる研究者であったことを意味する訳ではなく、先生はこの分野をベースとして、クラウド化される今後のネッ

トワークのさらなる高速化に関連した様々な応用に、広く研究の意欲を見せて来られました。先生のご業績は、学術誌論文54篇を始めとし、多数の国際会議・学会発表論文として残されています。ご業績の詳細については<http://www.asp.cce.i.kyoto-u.ac.jp/~norimatu/> をご覧下さい。

教育の面においては、先生は大学院情報学研究科とともに本学工学部電気電子工学科を担当され、光通信システム（大学院）および光通信工学（学部）の講義担当の他、同学科のカリキュラムの中心となる必修科目の学生実験・実習において、教材開発から教科書の執筆、学生の指導と多岐にわたって指導的役割を果たして来られました。また研究室においても博士論文4名、修士論文23名、学部卒業論文30名を直接に指導され、多数の学術誌論文を執筆させる等、きわめて熱心懇切な教育を行って来られました。上記の受賞論文も指導学生との共著によるものです。

先生について特筆すべきことの一つは、一線の教育者・研究者であると同時に、たいへんな勉強家でもあったということです。逝去の後研究室には膨大な書籍が残されており、電気電子工学科図書室の内田様のご尽力により分類整理して頂いた所、1,838冊に及ぶ専門書があり、そのうち1,376冊が図書室未収蔵であることが判明しました。これらはご遺族のご了解を得て電気電子工学科図書室に寄贈されました。

先生には今後もますますのご活躍を期待していただだけにご早世が悔やまれます。心よりご冥福をお祈り申し上げます。